

# 議会報編集特別委員会 視察報告

平成25年10月23日・24日の日程で視察を行った。

福島県郡山市の議会報は、中核市で構成される議長の投票において最優秀賞を獲得したものであった。デザインの秀逸さはもとより、難解な議会用語の説明や、陳情・請願の方法などを細部に掲載しており、また、視覚障がい者のために点字版を発行するなど心遣いがなされたものであった。

千葉県千葉市では、当市でも非常に苦心しているが、市民の皆様に関心を持たれる紙面づくりのため議会報全体のデザインの企画提案までを含めたブローカー方式の入札を行っていた。今



郡山市

回、落選した企業の提案まで見せていただいたが、その中にもすばらしい企画があったことに大変驚いた。

また、両市ともに全ページカラーで印刷しており、とても見やすく、そのほかにも様々な工夫が見られた。すべてを当市で取り入れられるものではないが、「市民に分かりやすく伝える」という点は、認識を同じくするもので、そのため創意工夫については、当市も全く共通の課題を抱えている。

今回の視察で学んだことを参考に、取り入れられるものは取り入れ、さらに見やすい紙面づくりに生かしたい。

## 公明党 行政視察報告

平成26年2月5日・6日の2日間にわたり、行政視察を行った。

兵庫県宝塚市「教育相談について」この事業の注目すべき点は、問題を抱えている幼児から18歳以下までを対象に支援を行っているユニークな点。

一人の子どもを13年間継続して見守っていくために、関係所管としっかりと連携を図り、相談から訪問指導まで根気強く取り組んでいた。平成22年度は相談375件、継続対応が227件。結果、不登校の解消、いじめ問題の適切対応にもつながっている。事業費の約1400万円はほぼ人件費であり、何よりも必要なのは一人の子どもを大事にする教育の熱意であると痛感した。

兵庫県相生市「危険な空地空家対策について」適正な管理が行われていない空き家等の問題は、本市に限らず、全国的な課題として浮上しているが、相生市においては、既存の環境条例に空き家の適正管理の項を加え、対策及び連携のためのマニュアルを作成していた。

相談窓口を明確にしながら、また、3年に一度、地元消防団が調査を実施し、実態を把握しながら対応しているが、相続人不明物件、個人財産に介入できない等、現行では、道路法、消防法の範疇でしか対応できないため、なかなか根本的な解決には至っていないとのことであった。

住民の安全を守り、また、環境保全のために、対応を可能とする法整備が望まれる。



宝塚市

## 編集後記

今年は冬季オリンピック・パラリンピックがあり、6月にはサッカーワールドカップが開催される。サッカーといえば、「キング・カズ」の愛称を持つ三浦知良さんが浮かんできてくる。日本プロサッカー選手の先駆者の存在だ。彼がつづる日経新聞のコラム「サッカー人として」を時々読むが「考え悩み 前に出る」という見出しの回のそれに次の言葉があった。「学ばない者は人のせいにする。学びつつある者は自分のせいにする。学ぶということを知っている者はだれのせいにもしない。僕は学び続ける人間でいたい」。そんな思いで日々歩んでいきたい。

(ゆうこ)



### 議会報編集特別委員会

- |      |      |      |     |
|------|------|------|-----|
| 委員   | 委員   | 副委員長 | 委員長 |
| 高橋裕子 | 中原智昭 | 松尾徳晴 | 柳朋之 |